

太平洋戦時下における上田地域への 学童疎開を調査して

長野大学
Peace Edu. サークル

発表の流れ

- 1 Peace Edu. とは
- 2 活動目的
- 3 活動紹介
- 4 私たちから伝えたいこと
- 5 今後の活動予定

1. Peace Eduとは

1. Peace Eduとは

- ・昨年度まで、山浦ゼミナールに所属し、上田市と太平洋戦争について研究していた学生を中心に立ち上げたサークル。
- ・歴史を風化させず、戦争の記憶を未来に繋げていきたいという思いから、平和教育を意味するPeace Eduをつくった。

2. 活動の目的

2. 活動の目的

・上田市に暮らす、太平洋戦争の体験者（ヒト）への聴き取りや、市内の戦争遺跡（モノ）の調査から、歴史的事実（コト）を知り、戦争を自分事として捉える。

・聴き取りや調査の内容、そこから何を感じ学んだのか、私たち若い世代が、同世代や次の世代に「語り継ぐ」。

・本年度は「学童疎開」をテーマに活動を行った。



3. 活動紹介

～1年間の活動を振り返って～

5月：フィールドワーク

上田市内の戦争遺跡を訪れる

【行程】

- ①上田市下之郷（東山松脂採取痕）
- ②仁古田飛行機製造地下工場跡
- ③上田飛行場 半地下工場建設跡
- ④上田飛行場跡

☆昨年度までの山浦ゼミでの学びを、
サークル内の後輩に伝えた。



東山にて

傷つけられた松

- ・ 上田市東山にある松の木
- ・ 矢羽根型の傷跡

➡戦争遺跡

- ・ 松の木からとれる油（松脂）で燃料不足を補おうとしたがうまくいかなかった



フィールドワークを通して

「戦争は最大の環境破壊である」

- ・ 戦争は人の命だけでなく、自然の命も奪う
- ・ 自然は人間と違って話すことはできないが、松の声なき声に耳を傾けてみてください。



6月：聴き取り調査

①若林悦郎さん（インタビュー時 88歳）

- ・ 別所生まれで在住の若林さんは、終戦当時、別所の国民学校の3年生だった。
- ・ 物資不足の当時の苦しい生活や、都会から来た疎開児童との交流の記憶について伺った。



②山極郁子さん（別所温泉つるや旅館の女将）

- ・ 別所温泉「つるや旅館」では、戦時中に集団疎開の子どもたちを受け入れていた。
- ・ 東京都杉並区の立教女学院の児童に、宿を提供していたご家族の経験をお話いただいた。



9月：立教女学院で疎開資料の調査

立教女学院の資料室を訪問

- ・立教女学院資料室の中村さん・岡部さんにご協力頂き、疎開資料の調査を行った。
- ・立教女学院を実際に訪れたことで、当時の詳細な疎開記録、文献を見ることができ、より上田地域への学童疎開の実態について理解が深まった。



学童疎開を調査して通して分かったこと

☆学童疎開は、疎開校側と疎開を受け入れた側の双方に、様々な苦労があった！

- ・ 幼い身で、親元を離れて暮らすことになった児童たちはもちろん、引率した教員、疎開を受け入れた地域の人々の負担も大きかった。

- ・ 特に、別所村では村の人口の倍以上の学童疎開者を受け入れていた。自分たちの暮らしも楽ではない中で、大勢の子どもたちの命を守り通した当時の人々の覚悟は、相当なものであったと言える。

11月：語り継ぐ活動

①会田中学で「平和を考える特別授業」

- ・中学生や地域の方々、約90人に向けて、戦時下を生きた方々のお話を紹介した。

- ・また、今でも残っている残る戦争遺跡についても取り上げ、自分たちが暮らしている地域の身近な所に、戦争の痕跡が存在していることを伝えた。



②坂城町講座にて、参加者と平和について考える

・坂城町文化センターにて、Peace Eduメンバーが、これまでの聞き取りやフィールドワークを通して学んできた、戦時下の暮らし・地域と戦争の関わり等について、参加者に向けて語った。



11月～1月：原稿執筆・活動まとめ

4. 私たちが伝えたいこと

戦争について誰もが興味を持ち、自分事として考えることが大切である。

戦争体験は、決して風化させてはいけないものだという認識を持って平和の尊さを感じてもらいたい。

5. 今後の活動予定

今後の活動予定

- ・ 活動記録集
「若者たちへの伝言2024」を
出版予定。
- ・ 市内の小・中・高、公共機関に
配布予定。
- ・ 2月中に市内の中学校を訪れ、
歴史の授業の時間で「語り継ぐ」
活動を予定。

若者たちへの伝言
2024



長野大学 学生サークル Peace Edu.
「信州上田学」2024 年度事業

ご清聴ありがとうございました。